

令和元年度（第3回）山鹿市総合教育会議議事録

日 時	令和2年2月21日（金）9時00分～
場 所	山鹿市役所（4階402会議室）
出席者	中嶋市長 堀田教育長 教育委員：栗川委員、野中委員、上田委員、野口委員 事務局：阿蘇品総務部長、瀬口教育部長、藤島首席教育審議員、藤本教育総務課長、新堀教育総務課課長補佐 説明補助員：木下経済部首席審議員、星子ふるさと未来総室審議員、園田社会教育課長、西牟田社会教育課課長補佐
傍聴者	なし

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1)山鹿学の取組状況について
 - (2)ふるさと未来総室の取組状況について
- 3 その他
 - (1) 次回開催について
 - (2) その他
- 4 閉 会

発言者	発 言 内 容
藤本教育総務課長	<p>令和元年度第3回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>まず、開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「山鹿学の取組状況について」と「経済部ふるさと未来総室の取組状況について」となっております。</p> <p>この議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議及び議事録につきましては公開とします。</p> <p>また、会議の時間につきましては、市長の公務もございますので、午前10時には終了したいと思いますので、ご協力の程よろしく申し上げます。なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは、議題に入ります。中嶋市長に会議の議長をお願いします。</p>
中嶋市長	<p>本日は、堀田教育長をはじめ、教育委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中にご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議では、ただ今、案内がありましたように「山鹿学」と「ふるさと未来総室の取組状況」について、有意義な意見交換ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>初めに『山鹿学の取組状況』について、社会教育課より説明をお願いします。</p>

<p>園田社会教育課長</p>	<p>説明に入る前に資料の訂正をお願いします。4 ページの中段③ふるさとの古墳探しの活動内容が②と重複しております。③の活動内容の実地の前までを削除いただき「自分の住む地域の古墳を」と修正をお願いします。</p> <p>山鹿学のこれまでの取り組みと今後の展開について説明します。</p> <p>まず、1 ページの山鹿学の定義にありますように、ふるさとの持っている価値を様々な角度から学ぶために、平成 30 年から令和元年にかけて 14 回の学習会を開催し延べ 800 人の方に受講していただきました。</p> <p>また、各地域の敬老会・サロン・集会において実施している出前講座では、日本遺産や地域の歴史講座に、平成 29 年が 76 回で 3,065 人、平成 30 年が 72 回で 1,785 人、本年度は 1 月現在、57 回で 1,015 人の市民に参加していただいております。</p> <p>また、各小学校のゲストティーチャーとして、地域の歴史や装飾古墳・方保田東原遺跡についての授業や、キャリア教育での講話などを実施しています。</p> <p>さらに、図書館備え付けの「紙芝居・パネルシアター」などで、保育園・小学校などに出向きお話し講座を開催しております。</p> <p>これらの成果を基に、今後の展開を考えております。基本的な取り組み事項としては、総合的に学ぶ事業を実施することとしており、この基本的な学びとして大きく 4 つのカリキュラムを準備しました。</p> <p>(1) ふるさとを理解するための学習、(2) ふるさとと自分のつながりを理解するための学習、(3) ふるさとの将来を考える学習、(4) 郷土愛をはぐくむ学習</p> <p>以上の 4 つの大きなくくりの中にそれぞれのカリキュラムを準備しました。</p> <p>2 ページから 3 ページにかけて参照いただきたいと思います。</p> <p>「1 ふるさとの歴史にふれる」では、5 つの単元に 8 つのテーマを設けております。それぞれの指導者には職員及び関係機関・市民のボランティア団体の方々に協力願う予定です。</p> <p>「2 のふるさとの自然にふれる」では、3 つの単元に 4 つのテーマを準備しております。</p> <p>「3 ふるさとの人もの暮らしにふれる」では、3 つの単元に 3 つのテーマを準備しております。</p> <p>「4 ふるさとのために、今、自分ができることを考える」では、3 つのテーマを準備しております。</p> <p>現在、取り組めるものは以上でございますが、今後テーマを増やし内容の充実を図っていきたいと考えます。</p> <p>4 ページから 8 ページにかけて、それぞれのカリキュラムにあわせて具体的なプログラムを立てております。</p> <p>それぞれのテーマの「学習のめあて」素材として、市内に点在するものを活用しながら学習していくこととしています。その指導者としては、社会教育課の学芸員や地域の方々など多方面の方々にお世話になろうと考えています。</p> <p>具体的な説明は時間の都合で割愛させていただきますが、今後、利活用の様子を見てニーズの把握に努めて、皆さん方のお話をお伺いしながらプログラムを増やしていければと考えます。</p> <p>次に、9 ページをお願いします。</p>
-----------------	---

	<p>この山鹿学の活用について、「社会教育課の主催」「学校授業での取り組み」「管内企業での取り組み」などに柔軟に対応できるように進めていきたいと思ひます。</p> <p>山鹿学の内、指導者が所管課・官公庁以外の場合には、その地域の特性や実情が違ふと思ひます。そこで各地区公民館に配置（令和2年度4月に発令）する地区公民館指導員兼地域学校協働活動推進員へ学校側が申し込めば事業が展開できるようなシステムづくりをしていきます。この推進員制度については、10ページに記載をしています。</p> <p>11ページから12ページについては、支援のための様式です。</p> <p>13ページからは文科省の地域学校協働活動の説明資料になります。</p> <p>14ページの概念図ですが、これまでも多くのグループ個人が学校活動に協力しておりましたが、その活動を表したものです。いままでの活動団体を緩やかに結び付けると表しています。</p> <p>15ページから17ページは、取り組みの概念になります。</p> <p>18ページは本年度文科省大臣表彰を受けた鹿本中学校の地域学校協働活動の取り組みで、19ページは昨年度文科省大臣表彰を受けた鹿北中学校の取り組み、20ページは来年度受賞を狙っている菊鹿中学校の取り組みになります。</p> <p>これらの「山鹿学」の取り組みカリキュラム・プログラムについては、主管課の案でございますので、今後教育総務・学校指導等のご意見を基に修正して、来年度4月から実施していきたいと考えております。</p> <p>また、平成15年出版の「わたしたちの山鹿」を大幅に改定して、山鹿学の副読本となる「新・私たちの山鹿」を作成する具体的な準備作業に入りたいと思ひます。</p> <p>以上、簡単ではありますが説明を終わります。</p>
中嶋市長	ただ今、説明がありました、皆様のご意見をお願いします。
野中委員	<p>山鹿学の推進にあたっては、山鹿学という言葉が教育大綱に入れた時から、新しいことに取組むことは非常に大変であると思ひていましたが、こうして具体化されてきたことには非常にうれしく思ひます。今後、教育委員会と学校教育で詳しく詰めていくということですので期待をしていきたいと思ひます。</p> <p>また、山鹿学の副読本を作っても、それが学校で活用されていくためには学校教育指導部の認識と推進力ということが課題になってきますので、検討をしていく必要もあると思ひます。</p> <p>また、実地研修や見学等も考えられているようですが、どのような活動をされるのか教えてください。</p>
園田社会教育課長	実地につきましては、基本的に山鹿にある文化・歴史遺産等を活用して進めていきたいと考えています。
栗川委員	先日の青少年育成会議で、城北高校の生徒が山鹿学のプレゼンを行ってくれましたが、非常に良かったと思ひています。子どもたちは観点が違っていて、大人たちが考え付かないような斬新な考えを持っています。また、子どもたちはインスタ映えを考えていて、八千代座の天井にあるシャンデリアに注目をしていました。私の団扇作りにも参考になります。他の高校にも進めていってもらうようにしたいと思ひていますのでよろしくお願い致します

中嶋市長	<p>栗川委員の意見に関連しますが、先般、熊本城ホールで国内観光活性化フォーラムがあり、全国から 1200 人程参加していました。そのフォーラムでは、「学生がつくる熊本県の着地型旅行プランコンテスト」もあっていましたが、鹿本商工高校の生徒たちが「山鹿で湯ったりぶらり旅」という旅行商品を提案し、自分たちの故郷に誇りや自信をもって発表している姿が非常にありがたいと思いました。</p> <p>特別賞を受賞されましたので、後日報告に来てくれました。鹿本商工高校だけではなく、他の頑張っている高校も応援していきたいと思っています。</p>
堀田教育長	<p>この山鹿学については、地域の方々と子どもたちに徹底するという事は当たり前前のことですが、山鹿を訪れる人にも知っていただくということは非常に大切なことだと思います。先程、副読本を作るとありましたが、具体的な作業内容について説明をお願いします。</p>
園田社会教育課長	<p>前回作成した平成 15 年には、教育委員会が主体として作成していますが、各学校の社会科の先生等をお願いをして、当時の小学 3、4 年生用として作ったものがありますので、500 冊ほど作成したいと思っています。また、観光客向けには、日本遺産等を盛り込んだ見開きのパンフレットができればと思っています。</p> <p>なお、作成時期につきましては、社会科部会等にもお願いして、令和 2 年度で構想を固めて令和 3 年度に予算化して作成したいと考えています。</p>
中嶋市長	他にありませんか。
上田委員	<p>山鹿学の大切さはいろんなところででてきていますが、昨年度の講座等の実績からしても担当課がしっかり取組んですばらしい結果がでていていると思います。また、今後の取組についても説明がありましたが、縦割りの取組ではなくて、横の連携でいろんな団体が入り込んでいますので、それがありがたいし嬉しいことだと思います。是非、教育委員会だけではなくて、いろんな分野の方々と取組みを進めながら、子どもたちや地域の方々が山鹿のすばらしさを改めて感じたり、誇りや自信になるような取組みになればいいなと思っていますところでは。</p> <p>先程、栗川委員からインスタ映えをいう話がありましたが、最近テレビを見ていましたら、今の若い人たちは本や文章を読むことがとても苦手で、SNS やスマートホンを使って学ぶことが多く、しかもその吸収力がすごいと言っていました。視覚的にも学びやすいと思いますので、是非、そのようなものを使って情報を発信していただきたいと思っています。</p>
園田社会教育課長	分かりました。
野口委員	<p>山鹿学という言葉そのものが、いろんな場面ででてくるようになると浸透してきていると感じられますが、まだ定着はしていないと思います。</p> <p>山鹿学を教育委員会で取組む大きなメリットは二つあって、一つは、学校分野との連携ができることです。子どもたちに、どのようにアピールしていくのか、そしてどう協力してやっていくのかということが重要になると思います。</p> <p>もう一つは博物館です。博物館の公開講座など色んなことをやっていることすべてが山鹿学の話になります。その辺どうまく調整をして、単なるチラシやパンフレットにしても山鹿学ということに関連付けてやっていくと、山鹿学が子どもたちからもでできますし、市民からもでてくるというような意識付けをしていただ</p>

	<p>きたいと思います。せっかく教育委員会でやっていますので、子どもたちのほうからと博物館のほうから、言葉と中身をしっかり入っていけるような仕組みを一緒に考えていけたらと思っています。</p>
瀬口教育部長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>市民が自分たちの地域の伝統ある文化や歴史などをよく知って、良いところを発見するということは自分たちの誇りにつながり、地域プライドが高まることだと思います。そのためには、楽しく吸収していただきたいので新しい感性や切り口は大事にしていきたいと思います。それをやりながら浸透させていって、より多くの人たちが山鹿学という言葉に親しむようになればと思っています。</p>
中嶋市長	<p>他にありますか。</p>
野中委員	<p>山鹿学の浸透の件については、部署ごとに一生懸命やってもなかなか伝わっていかないことがありますので、教育委員会が旗振り役となって、山鹿学という言葉を使えるように使っていくと市役所の中でも意識すると思いますし、資料の表紙にある「昔話読み聞かせ」の方々にも、山鹿学という言葉を使っていただくようお願いしておく意識をされると思います。</p> <p>先程、上田委員から意見がありましたが、タブレットも来年度から導入されますので、山鹿学に関する動画を作成すれば、コンテンツとして入れておくことで十分活用できますし、図書館でも利用できますので、その方向は現代に合わせておくことが必要だと思いました。</p>
阿蘇品総務部長	<p>ただ今タブレットの話がありましたので、市長部局の取組みも紹介いたします。</p> <p>来年度の予算の中で、市長部局の幹部級と市議会にタブレットを導入する予定にしております。既に国からの資料などもカラーで見やすいようになっていますし、ペーパーレス化ということだけではなく、資料の作り方や会議の在り方というものも段々変わってくると思いますので、徐々にではありますが、そういう方向にむけて進んでいくこととしております。</p>
中嶋市長	<p>それでは、次の議題に移ってよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
中嶋市長	<p>続きまして、「ふるさと未来総室の取組状況」について、説明をお願いします。</p>
阿蘇品総務部長	<p>本年度4月に新たな組織として「ふるさと未来総室」を設置しておりますので、その取組状況、また、次年度は日本遺産を通じた観光といった部分も集約しようと考えておりますので、担当からご説明申し上げます。</p>
木下経済部首席審議員	<p>議題(2)ふるさと未来総室の取組状況についてご説明申し上げます。</p> <p>昨年4月に設置され、主な業務は山鹿市総合戦略に掲げる「新シルク蚕業構想」、「菊鹿ワイナリー構想」、「山鹿灯籠ジャパンプランド構想」を次のステージへ引き上げるとともに、「菊池川流域の日本遺産」の取組を加えた「スリープラスワン戦略」の実現を担うものであります。本市の魅力ある農業・観光・歴史文化等の資源を関係部署や機関、団体等と連携しながら一体的に推進し、地域経済の好循環を生み出すことで地方創生の効果をより確かなものとし次の世代に引き継いでまいります。連携業務の実施に当たっては、各所管の強みを生かし横断的に実施することにより、効果の最大化、財政効果、速やかなサービスの提供を目指して取り組んでまいります。</p>

	<p>合併から15年が経過した今日、合併時の人口と比較して5千人以上減少するなど、私たちを取り巻く環境は、厳しさを増し大きく変わろうとしております。そのような中、総合戦略に掲げる経済政策を確実に成し遂げ、その成果をもってふるさと山鹿を持続可能で元気なまちにするため取組んでおります。併せて、行政と市民の皆様、地域、学校、企業等オール山鹿の精神で進めていくべきものと考えております。</p> <p>次に、令和元年度の取組について申し上げます。さきほど申し上げましたプロジェクトについては、シルク蚕業について操業から3年目を迎えて、一部商品化され、地元中心に雇用も行われ順調に推移しております。ワイナリーについても開業から一年を経過し、多くの方にご来場いただいております。商品が品薄となるほど好評であります。ジャパンブランドにつきましては、様々な取組によりその知名度が向上し、一定の成果を収めております。今後においても、個々の施策を磨き上げ、次のステージへと深化させていくものであります。</p>
中嶋市長	ただ今、説明がありました。皆様の御意見を申し上げます。
堀田教育長	教育委員会の所掌事務にはスポーツ振興に関することがあり、まちの活力にはスポーツ振興がとても大切であると思っておりますが、資料の「2 地方創生（第一期）における成果」では、スポーツがどこにつながってくるもののでしょうか。
木下経済部 首席審議員	スポーツの形態によっても関わり方が異なってまいりますが、例えば、昨年開催されました世界ハンドボール大会のPR戦略や情報発信等については「ふるさと未来総室」が担い、大会の運営に関しては社会体育課が担っていくものと考えています。
堀田教育長	スポーツ誘致に関しては、教育委員会であれば社会体育課に指示をだしますが、部局や課をまたがないとなかなか進まない部分もありますので、課題として難しい部分があると思っております。
木下経済部 首席審議員	具体例を申し上げますと、5月7日のオリンピック聖火リレーにつきましては我々の室で進めています。以前であれば縦割りで教育委員会が担当であったと思いますが、国も観光立国と旗頭を挙げていますので、観光にもつなげていかなければなりません。また、聖火リレーは県内13市町村しかありませんが、最も大切なことは、一人でも多くの小・中学生に見せて、そこで子どもたちが感じ取ったものをレガシーとしてつなげていくといった教育・スポーツ・観光など複数の目的がありますので、役所の中の組織上、どこかがきちんと担って調整や連携をして、多くの目的を達成するということが必要になってくると思います。
堀田教育長	どこと何がつながるのかということが具体的に分かってくると、職員の意識も変わってくると思います。
木下経済部 首席審議員	すぐには難しいと思っておりますが、今後、身に付けていければと思っております。
栗川委員	<p>私からは2点お伺いします。</p> <p>まずは、菊鹿ワイナリー構想の推進について、菊鹿ワイナリーがオープンして1年が過ぎますが、悲しいことに菊鹿ワインの小伏野や五郎丸が飲めないと聞いています。ワインがあれば菊鹿にもお客さんが来てくれると思いますので、そこでしか飲めないものを出せるようお願いができないものなのでしょうか。</p>

	<p>もう1点は、竹明かりイベントの「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」で「もくせい学園」の利用者が準備のお手伝いをしていると新聞にも載っていましたが、これからは福祉が協働して担っていかなければならない部分がいっぱいでてくると思います。残さなければならぬものとか手間暇を掛けなければならぬものは福祉が担っていければいいと思います。例えば、山鹿灯籠の和紙は八女市から入っていますが、生産が少なくなっていますので、できれば紙漉きを山鹿の福祉が担えないかということを考えています。是非とも、農業・祭り・産業と福祉の連携というものを、ふるさと未来総室で舵を取っていただければと思いますのでよろしくお願い申し上げます。</p>
木下経済部 首席審議員	<p>ワイナリーのご指摘の件は他からも聞いておりますので、一步ずつ進めていくところで承っておきます。</p> <p>福祉の部分につきましては、参考にはならないと思いますが、東京パラリンピックの採火式も山鹿市で行われます。これは福祉部が観光と連携・企画して8月15日の灯籠まつりの点灯式に合わせて採火式を行うという取組です。将来的には、福祉も農業も観光も地域づくりも壁がなくなるような時代が来ると思いますので、きちんとした責任と権限の中で明確にしながら対処していきたいと思っております。</p>
中嶋市長	<p>他にありませんか。</p>
上田委員	<p>本日の議題である山鹿学とふるさと未来総室の取組みについては、とても関連があると思って資料を見ていました。ただ、資料の「2 地方創生（第一期）における成果」にはいろんな事業が記載してありますが、これらについて小中高校生がどれだけ知っていて、そして学ぶ機会はあるのかということに疑問に思っています。</p> <p>高齢者が多くなっていく今の時代に、子どもたちが未来をどう作り上げていくのかと考えたときに、子どもたちの自主性・発想・企画力を作り出すための仕掛けが、今は必要ではないかと思っています。</p>
木下経済部 首席審議員	<p>今取組んでいることを紹介しますと、ワイナリーについては昨年の感謝祭を行った際に、市内の小中学校の子どもたちが企画した合唱やコーラスなどを披露していただきました。また、シルク養蚕事業につきましても鹿北の学校からも話をいただいていますし、ジャパンブランドは地元の高校からお話をいただいているところです。そうやって今行っている様々な役所の事業の中に、子どもたちや学校と協議しながら織り込んでいって、実際の場で伝えていけたら一番良いかなと考えております。</p>
堀田教育長	<p>話を聞いていますと、山鹿学もそうですが、点ではなくて線でつながっていることを強く感じています。</p>
野口委員	<p>横をつなげていくことは「言うは易し行うは難し」で大変ご苦労されていると思いますので、是非、各部局のトップがしっかり応援していただいて、次の成果につながるようによろしく願います。</p>
野中委員	<p>私もつなぐことは非常に難しいことだと思っています。資料の「3 更に深化させるために」の図を見ながら、この赤いリボン（線）は何だろうと考えました。つないで書くのは簡単ですが、この赤いリボンがなんだろうと考えたときに、つながりが見えてくるのだらうと思います。例えば、山鹿学でつなぐ、教育大綱にもあるESDでつなぐ。何をどうすればいいか、どうつなげればいいのかということ状況を</p>

	応じながら考えたら具体的なものが見えてくると思います。
中嶋市長	それでは、時間もありますので以上でよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
中嶋市長	それでは、次回の開催について説明をお願いします。
藤本教育総務課長	次回の開催につきましては、来年度7月に第1回目の会議を開催したいと思います。また、議題につきましては、毎年第1回目に行っております教育大綱の実施状況について報告をしたいと思います。以上です。
中嶋市長	次回の日程及び議題について説明がありましたが、ご意見やご質問等はございませんか。
各委員	ありません。
中嶋市長	ただいまの提案でよろしいですか。
委員一同	はい。
中嶋市長	それでは、本日は、大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。以上で議事を終わります。ありがとうございました。
藤本教育総務課長	本日の会議の全日程は終了いたしました。 これもちまして、令和元年度第3回山鹿市総合教育会議を終了します。